

# みんなの環境

第41号 2017年4月10日

編集/発行 あつぎ環境市民の会  
[http://www.geocities.jp/atsugi\\_kankyo/](http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/)

## 「日本と原発・4年後」上映会 河合弘之監督をお招きしてトークショー

遠藤睦子\*



河合弘之監督 撮影：山上義明

福島第一原発事故から5年の経過を機に、改めてこの壮絶な事故を問い直し現状を正しく認識しようと、映画「日本と原発・4年後」の上映会を開催しました。2016年10月15日（土）厚木市文化会館小ホールで、上映会と河合弘之監督をお招きしてのトークショーを行いました。準備期間が短かったのですが、市内の脱原発市民団体や九条の会の皆様の協力を得て、参加者は170名となりました。

「日本と原発・4年後」は、全国の原発差止め訴訟の先頭に立つ河合弘之弁護士が監督、海渡雄一弁護士が監修を

され2015年に作られました。

福島第一原発事故はどんな事故だったか、最悪の場合日本が、少なくとも東日本が壊滅する事態になりかねなかったほどの事故だったこと。それが今も広く伝えられないまま再稼働が進められようとしているのは何故か。1950年代からの原子力平和利用を目指した国策を維持する利益共同体＝原子カムラという巨大な社会構造があること。いまだに東京電力や国の責任が認められていないこと。（2017年3月18日、福島原発群馬訴訟で初めて国と東電の責任が認められた）廃炉・事故処理にむけては実態把握すらできず技術も未確立であり膨大な費用と時間がかかること。

一方ふるさとを汚染され健康被害も含め生活を破壊された人々には補償も不十分、汚染除去も不十分なまま、避難解除や補償打切りが進められている現実。河合さんと海渡さんは脱原発弁護士全国連絡会の共同代表となり、司法が原発を止める大きな力になることを実証してきました。その思いをより多くの人に理解してもらうために自ら映画を作り上げ、大きな市民の声で原発を止める力を強めてほしいと、上映会に赴いて皆さんに元気の出るお話をして回られています。

厚木の上映会でも、原発をめぐる最新情報、とりわけ子供たちの健康被害をきちんとみて救済していこうという活動のことなどお話していただきました。そして「原発が危険で高くて不要であることはよくわかった。でも原発をなくしたあとのエネルギーはどうするんだ？」という問いへの解を示す映画をもう作っています、と。脱原発はもう世界の流れであり、自然エネルギーが「安全で、楽しく、儲かる！」これで日本を再生していきましょうと檄をとばされました。最後に、河合さんが本当に本気で脱原発に取り組むきっかけになった、美しい福島県飯舘村の「飯舘村の歌」を朗々と舞台上で歌われ大喝采をあげました。

次作「日本と再生 ～光と風のギガワット作戦」がこの春には完成しています。太陽光発電やソーラークーラーなど推進を目指すあつぎ環境市民の会としては、この映画の上映会も企画し勉強したいという声が上がっています。 \*（えんどう むつこ あつぎ環境市民の会 厚木市旭町在住）

# 市長は3月、環境基本条例を「改正」と答弁

## 日本一の政策条例へ

高田 浩\*

### ○1993年を境に自然保護から生物多様性へ軸足が変化

環境政策は大事であることはわかるが、何をしたらいいのかわからない。これは大方の地方自治体における実情ではないでしょうか。

地方自治体にとって計画の策定・実施にあたって最も困難な事柄は、「必要な人員が不足」との調査結果がある一方で、清掃部門を除いた環境保全部門の職員は増加傾向にあります。

1993年、国連で生物多様性条約の発効を境に自然保護から生物多様性へと世界中がシフト。「自然を守る」から「保全しながら利用する」に軸足は変化しています。環境政策を担う職員は、文系理系を問わない広い視野とクリエイティブさが必要です。しかしながら、職員の意識や価値観は多様であり、配置転換もあります。組織内の障害を補う制度設計が求められます。

### ○市民団体との連携・協働

お陰様で、小林常良市長は3月1日、「条例の改正に取り組む」と答弁。これは私の「1986年制定の厚木市環境基本条例について、全面的に改正する考えは」との質問への答弁です。

現状の厚木市環境基本条例は、一言で言うと古いです。抽象的であり政策条例ではありません。2016年12月議会に於いて、環境教育や調査、自然との調和などは条例のどこに当てはまるのかとの質問に全て「第8条第7号の『その他』に相当する」との連発でした。

私は以下の通り、理念条例から政策条例にする具体的なアイデアを厚木市に提示済です。大学院の知見+行政の現場感覚+議会質疑 = 完成度の高い制度設計を目指します。



	厚木市環境基本条例	川崎市条例など	高田私案
審査組織 (事業公表前)	担当部署	担当部署 環境調整会議	担当部署 環境調整会議
審査組織 (事業公表後)	議会	議会	議会 環境審議会 生物多様性地域戦略検討委員会

環境政策のカバー領域は、広大です。発生しえる盲点を補う次善の策として、専門家集団である環境審議会や生物多様性戦略推進委員会が市長に助言・勧告できる役割を付加します。これは、米国環境諮問委員会がモデルです。同委員会は、大統領に専門的、省庁横断的見地から環境政策に関する勧告を行うホワイトハウス直属機関です。助言・勧告された案件は、市ホームページで公表し、経営会議の議題とすることにより、先進的かつ安心な条例となります。

また、職員には、環境行政の背景、生物多様性や生態系管理に係る施策、市民団体との連携・協働について学ぶ機会を設けることが望ましいです。私たち会員の出番はここにあります。なお、私は6月、この件について学会発表を予定しています。

\* (たかだ ひろし あつぎ環境市民の会、横浜国立大学大学院修士課程[環境法] 厚木市鷺尾在住)

## ～「あつぎ環境市民の会」に感謝～

高橋弘毅\*

昭和年代の厚木は、夏満天に北斗七星が輝く不問橋（水引 1-1-1 番地道路角現在暗渠化の田村掘り）に近隣同士が集い夕涼み。近隣の雑木林は遊び用具工作（弓矢、冬は田んぼに作る小鳥毬、紙・水鉄砲、ゴム動力飛行機・グライダー、木船、竹馬、等）用資材調達場は子ども達で近隣の雑木林や河川に出向いて遊び場の一部としていた。

定年後は！枯木にならない生木でいたい！と身近なアサガオの根の長さを調査実施や、厚木に生まれ育ったので、厚木市マップの行政区(愛川町・海老名市・平塚市との境沿を一周徒歩観察など、大山から「七沢自然ふれあいセンター」付近への下りでザイルを利用など大変だった) 挑戦延べ6日で完歩した。「七沢里山づくりの会」活動で里山管理を体験し、また厚木市へ「個性あるまちづくり提案」などに取組み、平成16年1月に「市民のための環境学習教室」が優秀賞に決定されたがその後の進展が無く、行政頼りよりも地域の課題解決活動へと思考向転換し取組んでいた。その様な時に「あつぎ環境市民の会」H16年発足に誘われ、月例会での意見交換や学習会、行事などから、昔の自然環境などを再現したいと一縷の望みを抱き参画し始めた。

具体的には、「あつぎ環境市民の会」関連の研修会や二酸化窒素のモニタリング活動、地球温暖化予防活動の「環境家計簿」啓発や、依知南公民館の毎月エネルギー消費データで「依知南公民館広報[環境家計簿]」をA1サイズのパネルで掲示など啓発活動を11年間実施や「地域子ども自然環境学習会」ほか企画推進に取組みをした。

神奈川県自然保護協会の各種学習会や厚木植物会、丹沢自然保護協会、かながわアジェンダ推進センター、県自然環境保全センター、神奈川環境科学センター、神奈川県立生命の星・地球博物館、厚木市郷土資料館、神奈川工科大学など)に参加しスキル向上を意識した。このような体験が視野の拡大に寄与し、私自身の生きがいになり、地元金田でも活動の多様性にささやかながらお手伝いをさせていただいていると自負して居ります。嬉しいことに荻野に出来た“あつぎこどもの森公園”運営方法が「市民のための環境学習教室」として提案した内容に近くよるこんでいます。「あつぎ環境市民の会」の皆様には大変お世話になり「まことにありがとうございました」

### ～アサガオの根の長さを調べる～



毎年、西日除けに咲いているきれいなアサガオの根の長さがどのくらいあるのかなと疑問を持ち平成9年8/30～9/5に調べた。

- ・窓下の土地に種をじかまきし、内一粒は酢蛸漬けのポリ容器に入れ、同じ場所での水やりをし
- ・開花後90%程度の時期に蔓を切った。
- ・容器から根のみをどうして取りだしたか → 水を入れたバケツに容器を入れ振動させて、根と土を分離した。

絡み合った髪の毛より細い根をどうして分離するか → 7ℓ入りのバケツの水中で宇宙遊泳の様に根を泳がせて、ハサミとピンセットで太いものから細いものへと切断し、切断都度新聞紙株式欄上に1本づつ並べ7日を要した。

・計算：79行×5日+2行=397行×52cm=206m44cm

\*このことは、依知南小学校の校長先生に、近所の子どもから手紙と写真を届けた。校長先生から、朝礼で「きれいな花を咲かせているのは見えないとこで努力しているのです」等挨拶の中でお話しをされたとお礼の電話があった。

\* (たかはし こうき 厚木市金田在住)

## 平成 29 年度定時総会のお知らせ

次の日程で定時総会を開催します。今回は昨年3月開園したあつぎこどもの森公園での自然観察も行いますので、多くの会員の参加をお待ちしております。出席可能な方は、井上（代表）または、鷺谷（事務局）までご連絡ください

日 時 2017年4月28日（金） 午前10時30分～14時

場 所 あつぎこどもの森公園内管理棟及び園内

内 容 I. 総会（管理棟）

(1) 28年度事業報告及び決算報告の承認

(2) 29年度事業計画及び収支予算の審議

II. 自然観察(こどもの森園内)

講師：長岡恂（会員、あつぎこどもの森クラブ会長）

青砥航次（会員、あつぎこどもの森クラブ自然PJリーダー）

III. 旬を食べる（会員限定、作業棟） かまどで炊いた筍ご飯の試食。

参加費 300円（当日徴収）、会員以外の参加も可能ですが入会が必要です。

持ち物 食器（茶碗、お椀、箸）

---

## 【予告】

### 「日本と再生 ～光と風のギガワット作戦」上映会

河合弘之監督のドキュメンタリー映画「日本と原発」、「日本と原発4年後」に続く第3弾「日本と再生 光と風のギガワット作戦」上映会を9月に計画しました。

この映画は、脱原発を目指す河合弘之氏が「原発ゼロを実現しても自然エネルギーで地域も経済も再生できる」と信じ、環境学者・飯田哲也氏とともにドイツ、デンマーク、中国、アメリカ、アイスランド、南アフリカなどに足を運び、世界中で同時進行的に起きている再生エネルギー革命の最前線を紹介しています。政府が推進する原発依存ではなく、自然エネルギーでじゅうぶんやっつけられるという説得力のある映画に仕上がっています。

未来世代に安心を届けるために、この上映会に一人でも多くの方々の参加を得て、リスクの高い原発依存から脱していきましょう。

日 時：2017年9月1日（金）（予定）

河合監督のトーク（交渉中、詳細が決まり次第発表）

場 所：厚木市文化会館小ホール

入場券：（全自由席）前売り：1,000円、当日1,200円 大学生以下500円

前売り所：厚木市文化会館 046-224-9999、有隣堂厚木店 046-223-4111 ほかを予定

主 催：あつぎ環境市民の会

お問合せ：（電話・FAX）046-241-7976（井上） メール pxa05613@nifty.com

### みんなの環境 第41号 2017年4月10日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 井上允 / 制作 長岡恂  
e-mail : mkt.inoue117@gmail.com

事務局 〒243-0122 厚木市森の里 3-4-3 鷺谷雅敏方  
e-mail : pxa05613@nifty.com

郵便振替口座 00200-7-132779（年会費 1000円）

(C)あつぎ環境市民の会 2017